

語り手 遠藤たいさん  
 (明治32年生まれ)  
 昭和57年1月7日収録

あらすじ

ある佐治谷に人のいい男の若いもんが1人おりました。

それから、こっちの家におじいさんやおばあさんのところに娘が1人おつて、そいでその人のいい正直もんだいなけん、それをまあ婿さんにもらわいいって、婿にそれが行きましたそいで。そげしたら、人間のいいよつなもんだけん、そいでけえ、言われた通りに何もする。

それで、飯食べたときにお茶飲みかけたら、お茶がえらい熱いで、そのおばあさんが「お茶の

### 愚か婿とたくあん風呂

(西伯郡伯耆町溝口)



イラスト・福本隆男

## 佐治谷話の一つに

言われたら、そげして、かっただそいで、何だかおせ。そつしたら漬けもん入れ 宮だか何とかいうようなて混ぜえとお茶がぬるう名だったそつですが、そなつて、そつで飲んで喜の嫁さんの名を言つてんでおりました。「漬けもん持つてきてい

熱いときは漬けもんを一切れ入れて、箸でもつて 呂に真っ先に入れ」ってそつで「漬けもん何にす混ぜたらお茶が冷めえけ 言われて、風呂に入ろうる」「いや、漬けもん、そげして飲め」ってとしたら、風呂がちと熱 はやはや持つてきてい

「こらまあ、なんほ混ぜてもあかの、冷めんけんしかたがない。まあ縁でなとほんなら水くんできて、ちいとわて埋めて入るけん」ちいで、嫁さんが水くんできて、そげ 探る』がある。

「こらまあ、なんほ混ぜてもあかの、冷めんけんしかたがない。まあ縁でなとほんなら水くんできて、ちいとわて埋めて入るけん」ちいで、嫁さんが水くんできて、そげ 探る』がある。

「こらまあ、なんほ混ぜてもあかの、冷めんけんしかたがない。まあ縁でなとほんなら水くんできて、ちいとわて埋めて入るけん」ちいで、嫁さんが水くんできて、そげ 探る』がある。

### 解説

本連載の体裁にしたがつて「あらすじ」としたが、実際は遠藤さんが語られたそのままを紹介したものである。

遠藤さんの話では、この話は文久3(1863)年生まれ父から聞かれたものことだった。

関敬吾『日本昔話大成』で調べると、笑話の愚人譚の中の「愚か婿(息子)」

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)